

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

アベノミクス（良薬）の副作用に備える

1. 貯蓄から投資へ。これほど掛け声倒れを繰り返してきたスローガンはない。日本の個人マネーはこれまで頑なに預貯金に閉じこもってきた。そんな中、降ってわいたかのようなアベノミクス相場が家計を揺り動かす。アベノミクスを軸にした経済運営が続くとすれば、個人はいかにして資産を守り、そして殖やしていけばいいのか。「良薬」とされる各政策には副作用も潜む。3つのポイントを挙げておこう。
2. 1つ目は、将来の過度なインフレに備えるということ。お金よりもモノの価値が上がるインフレ経済では、預金よりも株式や不動産として資産を持つことは合理的な選択だ。しかし、目標（消費者物価指数の上昇率 2%）を達成したとしても、いったん上がり始めた物価を制御することは難しくなるかもしれない。インフレに歯止めがかからなければ企業のコスト負担も増大し、株式投資にとって重要な業績拡大も見込めない。インフレへの期待が相場全体を押し上げる期間は意外と短い可能性もある。
3. 2つ目は、今後の円安の動きの中身を見極めることだ。今は輸出企業の為替採算を改善させる「良い円安」とされる。これがどのタイミングで「悪い円安」に転じないか注意が必要だ。3つ目は、自分自身の成長ストーリーを持つことだ。独自の投資基準を持って判断することが次への備えになる。

(参考:「日経ビジネス」2013年3月25日号)

新規成長分野

富裕者を招き入れた京都

1. 京都の歴史ある寺院。拝観時間の終了後にある外国人がVIPしか入ることのできない部屋に招き入れられる。そこに、英語が堪能な僧侶が現われて特別講話。絶景の庭に移動して尺八や篠笛の演奏を聞きながら茶懐石に舌鼓…。世界の富裕層旅行市場では貴族が住んでいたドイツの古城を貸し切ったの富裕層向けパーティーはごく当たり前に行われているという。
2. 富裕層は富の永続、健康、学びの機会を欲しており、旅においては、普通の人はできない「特別な体験」を求めている。京都の場合、寺院巡りや伝統工芸品の買い物ではなく、一般の人が立ち入れない「奥の院」の見学、「人間国宝級の職人さんとの対話」がそれだ。富裕層旅行者は1日に100万円以上使うこともざらであり、年間1億円を使う層も万単位とされる。(参考:「WEDGE」:2013年5月号)

海外事情

BRICsの次はMINTs

1. 成長鈍化によって、BRICsのビジネスは以前に比べ難しくなっている。そうした中で、日本企業は新市場を探している。その中で、次に大きく飛躍する新興国として、MINTsと呼ばれる国々(メキシコ、インドネシア、ナイジェリア、トルコ)に注目が集まっている。まず、メキシコは人口1.1億人で、世界最大のスペイン語人口を持つ国だ。中南米ではブラジルに次ぐ経済規模を誇り、「次の経済ブーム国」になりうる。
2. インドネシアは、躍進するASEANの中で最も注目される国だ。人口は2.4億人で、中間層の消費が拡大しており、製造業のほか、銀行、鉱物、建設などの産業が強い。ナイジェリアはまだ日本人にはなじみが薄い国だが、起業家精神が豊富で富裕層の数はアフリカで最も多い。トルコは中東と欧州を結ぶ位置にあり、国民は非常に優秀だ。人口は7400万人まで増え、欧州一のドイツ(8200万人)に近づいている。

(参考:「週刊東洋経済」2013年4月13日号)

古典に学ぶ

欲望は人を狂わす

(解説) 多彩ないろどりは、人の視覚をそこなう。刺激的な音楽は人の聴覚を傷つける。手のこんだ料理は人の味覚を狂わせる。狩りを好んで獲物を追うことに熱中すれば、人は心の平衡を失う。宝物を手に入れようと夢中になれば、人は行ないをあやまる。聖人は、もっぱら内面を充実させて、外界の刺激を追い求めない。つまり、欲望を捨てて、「道」にのっとるのである。

(参考: 奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」: 徳間書店)